

## 第2回 吹田市総合計画審議会

■日 時：令和5年（2023年）2月21日（火） 18：30～20：23

■場 所：メイシアター集会室

■出席者：別紙「出席者一覧」のとおり

■傍聴人：3名

■資料：

資料1 第4次総合計画見直し 策定スケジュール・本日の到達点

資料2 市民参画・周知の取組報告

資料3 第4次総合計画基本構想 時点修正案

資料4-1 各部会での意見（まとめ）

資料4-2 各部会での意見及び所管室課回答

資料5 第4次総合計画基本計画改訂版素案（第2回審議会時点）

資料6 第4次総合計画基本計画改訂版素案 新旧対照表（第2回部会・第2回審議会時点）

資料7 第4次総合計画改訂版 指標設定理由・根拠及び見直し理由一覧

資料8 第4次総合計画改訂版 指標の見直しポイント別一覧

■議事要旨

### 1. 定足確認

### 2. 案件

【報告】(1)、(2)、(3)（資料1、2、3）

事務局：（資料説明）

A 委員：

ワークショップについては、確かに第4次総合計画で取り上げるのは難しいかもしれないが、ワークショップに参加した実感として、市として市民とどう向き合うのかがうまく見えてこない、というのが地域で取り組む人たちの声である。特にSDGsは2030年までの目標であることも考慮すると、第5次総合計画の策定を待たずに取り組めることは、その観点で対応していくべきではないか。

事務局：

第4次総合計画の見直しで反映できる部分については修正等の対応をしていきたいと考えており、修正等ができない部分も今後の取組に活かしていきたいと考えている。

会長：

第5次総合計画を作成する担当者が、第4次総合計画の見直しで反映ができない部分について漏れなく見直しができるような形にしなければならないと思う。もちろん今できることは取り組まれると思うが、できない部分について、別冊扱いで残すなど、第5次総合計画への申し送り事項として確実にセット化した資料の作成をお願いしたい。

A 委員：

協働の仕組みについては、第 5 次総合計画の策定を待たずに対応できると思うため、お願いしたい。

会長：

取り組める部分があれば、取り組んでいただくということでお願いしたい。

【議題】(1) 第 4 次総合計画改訂版素案 ア、イ (資料 4、5、6、7、8)

事務局：(資料説明) (資料 4-2、5、6、7、8)

会長：(資料説明) (資料 4-1 (第 1 部会、第 3 部会分))

副会長：(資料説明) (資料 4-1 (第 2 部会分))

会長：

各部会の報告をさせていただくとともに、指標の考え方について説明をいただいた。

まず、防災・防犯について B 委員から御意見等あればお願いしたい。

B 委員：

部会での議論の結果、修正となったものが共有されている認識である。防災・防犯では、指標の見直しが議論の中心であった。抜本的な見直しの場ではなく、中間見直しというところで、指標の目標値などについて議論した。また、防犯の指標で刑法犯認知件数が設定されていたが、施策として実行したことが表れにくい指標設定であるため、実行したことが表れるような具体的な指標に変更してほしいという議論があった。まちの安心・安全が守られているかどうかを発生件数で測ることができる刑法犯の種類は何か、という点を踏まえて変更していただいたのが最も大きい部分である。

会長：

第 2 部会ではいろいろと議論があったと聞いている。C 委員から御意見等があればお願いしたい。

C 委員：

振り返りというより、今回の資料についての意見となるが、資料 7 の 7 ページ、施策指標 4-1-3 「生後 4 か月までの乳児がいる家庭に対し保健師、助産師、民生委員・児童委員などが訪問や面談を行った割合」が上方修正されているが、前回の議論に対する所管室課の回答を見たところ、目標を 100%としているが、複数の施策を入れているため、本来は 100%を超える目標なのではないか。元々は、児童福祉法上の乳児家庭全戸訪問事業と母子保健法上の新生児の訪問指導を入れての指標だったかと思うが、今年 2 月から新たに実施する出産・子育て応援事業を推進する中で 100%をめざしていくという回答があった。3 事業を入れ込んで 100%としているのはおかしいと感じる。また、「訪問し面談」を「訪問や面談」という文言に修正されているが、そもそもアプローチが異なる。元々は、訪問して面談という指標だったものが、窓口に来て面談したのもの 1 とカウントするのであれば、100%を達成するのは容易なのではないか。言葉を少し変更しただけではあるが、内容が変わっており疑問に思うため、また担当室課に御確認をお願いしたい。

D 委員：

特に意見はなく感想となるが、資料7を見ると本当にたくさんの指標をあげているが、本当にこれだけ要るのか。それだけ頑張っておられるのかと思うが、もう少し絞ってもよいのではないか。

A 委員：

当初はどこまでを見直すべきなのかという点で認識のずれがあったが、見直すのであれば前向きに捉えてほしいということで意見を出していた。2回目の部会ではそのずれは解消されたと思っている。

第1部会、第3部会の資料を拝見していて気づいたこととして、資料4-1について、「SDGs ゴールについてロゴを使っているが、これをどう活用したいのかが明確ではない。単に施策と結びつけるだけでは本質とずれるのではないか。ゴールに関係する施策が文章の中にあってもよい。」との意見があるが、書こうとすると色々なものと結びつくため、例えば、大綱3で書こうとしても実は大綱5や6にも関係するというのがSDGsである。総合計画見直しの中でその整理をしておかなくては、俗に言うSDGsウォッシュと非難されるような使い方になっては危険である。SDGs ゴールから見たら、総合計画の見直しがまた違う描写ができるということであれば分かる。17のゴールに引きずられすぎると、SDGsの本質である、社会・経済・環境など大きな括りが逆に見えにくくなるのではないか。ロゴを使用するのであれば、その意味合いを把握した上で使わないといけない。第2部会では出なかった意見ではあるが、全てに共通する部分であるため意見させていただいた。

会長：

同じような議論が第1部会でも出ていたため、E委員からぜひお願いしたい。

E 委員：

SDGsの取組は、必死に頑張っていて体力のある自治体でトップランナーを走るところと、まだこれから頑張るところといろいろあり、成熟度の違いのようなものがある。自分たちがやっていることにSDGsのゴールを紐づける、いわゆるインサイドアウトというアプローチで、今回はそのアプローチでラベルが貼られた。この次のステージとして、アウトサイドインアプローチがあり、SDGsが求めているゴール17個だけではなく、具体的にやるべき169のターゲットを前に出し、これが国際的期待であり要求であるという理念に対して吹田市はどれくらいできているか、理想から逆算するというアプローチに次は上がらなくてはならない。今回はそこまで改訂すると大事になるためやれないが、第5次総合計画ではぜひチャレンジしていただきたいという思いがある。

会長：

いずれにしてもSDGsのマークを貼るだけはよくないということはスタートラインとして共通認識があり議論をした。

また、第2部会で認識の違いがあったということだが、本市の総合計画は10年単位としており、前半5年、後半5年で分ける、変えるという計画ではない。とはいえ、本市の変化を踏まえ、少しでもよい方向にしたい、せっかくのチャンスなのだからという部分はあった。ただ、議論になかった指標が追加されたり、目標値が変わっていたり、色々な変更があり、落としどころが見えにくくなった。また施策別ではなく横断的に、B委員からの指摘にあったような少し観点の違うものを入れていかざるを得な

いというのも現実にあった。そのバランスが取れているかは皆さんにチェックいただきたい。次年度も引き続きその辺りを意識しながら御覧いただきたいと思う。

次回審議会では、庁内で再度検討された素案が示される予定のため、改訂に対し更に御意見等あればお伺いしたい。本年度としては最後となるため、お一人ずつ1分程度で願います。

F委員：

2025年に大阪・関西万博があり、本市は1970年に大阪万博を実施したということで、ある程度脚光を浴びると思う。ウェブ版でも構わないため、総合計画の英語の概要版があった方がよいのではないか。吹田は人口の4,000人程度が外国人で、これからもっと増えていくであろうと思う。大学も5つあり、国立の施設もあり、国際色もあるということで理由はたくさんある。一番大きいのは、2025年万博の開催は第4次総合計画策定時に重なるような時期に決定しているかと思うが、変更要素があることである。英語の概要版作成は第5次総合計画からでもよいと思うが、2020年に小学校5年生、6年生の教科に英語が加わり、その子供たちが、第5次総合計画策定時には20歳ぐらいになっているため英語の概要版が必要だと思う。

会長：

確かに第4次総合計画策定時には大阪・関西万博の開催ははっきりとしていなかったが、今の素案の段階で入れられるものがあれば、少し考えてみてもよいのかもしれない。英語の概要版については総合計画以前の問題かもしれない。

G委員：

先ほどの話に追加する形となるが、中国語もあった方がよい。大阪大学にも中国人の留学生が多く、中国語しか話せない市民もいると思う。

あと2点ほど述べたいが、1つはSDGsのゴールについて、確かにバックキャストの考え方は必要で、次の総合計画になるかと思うが、市の職員でSDGsをまだ理解していない人がいれば、E委員か私に連絡をしてもらえればと思う。

もう1点、部会で議論となった生物多様性について、見直し段階で大きく指標を変えることができないことは承知しているが、次の総合計画には包摂的な指標を入れていただきたいと思う。

H委員：

コロナについて、今後、マスクの装着については個人の判断となるが、マスクをすぐに外さない人も一方外す人の割合も多くなり、感染リスクも高くなると思う。このように、現時点で予測できることに対して策を講じ、解決していけるようにしてほしい。

また資料7について、行政評価がSからCの評価があるが、評価基準はどこにあり、次はどこをめざしているのか気になった。

事務局：

年に1回、行政評価を実施している。総合計画の施策指標に掲げている目標値が達成できているか、どれくらい近づいているかという観点で評価をしている。詳しい資料については追って送付させていただく。

#### D 委員：

SDGs や DX、AI など新しい言葉や概念がどんどん出てきており、その意味を正しくつかむことは必要だが、それらを取り入れて文章化するかどうかはじっくり検討すべきである。また、指標を満たすために余分な努力をしてしまわないか、その点は心配で、控えめな方がよいと思う。

#### E 委員：

SDGs について 2 点あり、1 点目は各部局に作業をしてもらう前に、まず企画財政室で 2030 アジェンダの 169 のターゲットでバックキャストにトライいただき、吹田にとってどれくらいチャレンジングであるかどうかを評価してはどうか。17 のゴールで日本人がイメージするものとは異なるターゲットが 169 の中にあるため、新たな発見があると思う。指標との紐づけの部分については、地方創生ローカル SDGs 指標という、基礎自治体が目標達成に向けた進捗状況を計測するための指標が内閣府から作成されているため、独自指標も大事だがそちらも参考にするとよいと思う。

2 点目は、今年から、2030 の後の SDGs、Beyond SDGs、Post SDGs、Post2030 アジェンダと言われるような取組が始まっており、2025 年の大阪・関西万博においてオール関西で Post SDGs でやるべきことを提案するということが、共通ミッションとして万博協会を含めて様々なところで立ち上がっている。1 つ目の課題と合わせて、吹田からも視点の追加について提案できるとよいと思うため、ぜひ一緒に考えさせてほしい。

#### I 委員：

各委員の方からも活発な意見があり、勉強となった部分があった。また各担当部局にも丁寧に対応いただき、よいディスカッションであった。その中でも、先ほどの会長からの話にあったように、あまり指標の変更をしてはいけなかったということを理解した。委員からの意見に対して、果敢に部局の方で対応いただいたのはありがたかった。新規指標の結核罹患率や従来から設定している特定健診の指標について、人が健診を受ける行動へ誘うために重要なことは自分の身体を理解することであり、保健指導に重点を置いてほしいという意見も出した。それぞれの部局の思い、考えを理解することができ、指標の設定には難しい面もあり、様々な背景、考えがあつての指標であるということが分かった。その上で、最終的にこれらの指標をどうやって達成していくのか、戦略として、具体的事業としてイメージ化された上での指標であることを強く望んでいる。例えば、結核の指標については最終的に意見をいただく中で納得をしているが、結核が増える背景には感染症対策という側面だけではなく、格差の問題に対応する観点や糖尿病の問題などの生活習慣とも極めて密接に関係している。総合的に戦略を考え、指標が達成できる具体的なイメージを考えながら、残りの 5 年を進めていただけるよう所管室課で更に検討を深めていただきたい。

#### C 委員：

次の 5 年というと少子化の進行が非常に深刻であり、人口減少と少子高齢化の進行という文面は今回もあるが、より深刻に感じていかなくはないのではないかと考える。吹田市は比較的若い人が多く、人口減少というよりは人口が増えている現状ではあり、危機感はそれほどないが、社会の人口構成が変わってしまうため、吹田市としても少子化対策をもう少し打ち出さなくてはならないと思う。コロナの流行でより拍車がかかったため、深刻であると捉えている。

B 委員：

防災・防犯を担当しており、資料 2 の市民参画・周知の取組を見ると、低評価に目が行くが、市民自治によるまちづくり、災害に強く安心して暮らせるまちづくりの 2 点が特に若い人でやや低評価である。そのような中で、吹田の防災・防犯を市民参画、まちづくりの中で実行することができる計画が今後あればよい。今のところ総合計画にそのような指標はない。今後、2030 年から 2040 年の間には南海トラフ地震が起こり、それまでにどこかで直下型地震も起こるだろうと言われている。地震や風水害など様々なリスクが上がっているのは間違いないが、その中で、市民側の活動によって防災や安全対策が成し遂げられるのだということに、今後取り組めるとよい。防災というと道路や堤防を作るなど公共の部分の対策となってしまう、市民参画という部分は指標としては上がってこない。市民の評価にも自分たちは関与しないものとしてそのまま表れている。自分たちで作り上げる安心、安全に関する取組を、今後は指標や計画の中に組み込んでいければよいと考えている。

A 委員：

3 点述べたい。1 点目は、市民自治に目を向けるということでこの審議会に参加をしているが、ワークショップの場での意見は非常に響いた。グループワークを行い、テーブルごとにテーマを変えて話をしてもらったが、どのテーブルからも市役所と対話する場が必要だという意見が強く出ていた。現時点で十分ではないことの流れで、それぞれ市民自治を重視する上での鍵であり、見直しをしながら気になっていた点である。言い換えると、吹田市の将来像の「だれもが安心してすこやかに快適に暮らし続けられるまちをめざす」とある中の「だれもが」という部分、ステークホルダーの問題で、ステークホルダーとは吹田市民全体であるというのが意識されていないといけないのではないかと思う。それがないと市民自治が醸成されていかないのではという懸念がある。

2 点目は、SDGs の 17 の目標に行く前に、SDGs の掲げる将来像と吹田のめざす将来像を突き合わせる作業を企画財政室でぜひやってほしい。

3 点目に、Post SDGs の動きについて言及があったが、2030 アジェンダの方針を踏まえて、吹田市の将来像を大切にしながら上手に取り込んでいくのが大事である。

J 委員：

地元の商工業者の代表として、いろいろと感じていることをお話しした。指標としては事業所数として目標値を掲げているが、よくなっているかどうか数を追うだけでは評価しにくいいため、内容が問題ではないかということを示し上げた。10 年間の指標としては納得している。吹田産業フェアを始めた理由としては、吹田市の地元の産業、商工業を市民の皆さんにもっと知ってもらいたいという思いがあった。企業も法人として、企業市民として地元で役割は果たしているが、吹田市は大阪市に近く、働く人は地元の方より市外の方が多いような状況であるため、地元企業が市民とのつながりを持ち、一緒に地元地域を活性化していき、できれば職住近接で、地元で活躍していただく方も増やしていきたいため、今後はその点を反映するような指標の設定をしていただけるとありがたい。

K 委員：

専門の委員からの意見を聞き勉強になった。中間見直しの前の 3 年間はコロナにより思ってもみない状況に見舞われ、市民活動、福祉活動は自粛、中止が多く、皆さんの活動が下火になっていった。これを 3 年前の状況に盛り上げるには 2 倍、3 倍のエネルギーが必要である。3 年間で 3 歳、年を取った分、

それを盛り上げるためにどれだけの力が発揮できるか。行政にもサポートいただきながら、市民の活動をできるだけ活発にしていけたらと考えている。

L 委員：

PTA も市民自治、地域活動の一部を担っていると思っている。地域活動も担い手不足があるということだが、PTA についても役員の担い手がない。そういうことも地域の担い手不足の 1 つの要因ではないか。以前は、頼み込めばやっていただける方が一定数いたが、現状は自分の子供や家族など、自分中心の視点の傾向となっており、学校のため、地域のためにやってやろうという心意気の人が本当に少なくなってきたと感じる。PTA も毎年顔ぶれが変わり、なかなか変化しづらい組織というのも一因かと思うが、地域の方も高齢化が進み、年齢のギャップがありすぎて交流しづらい部分がある。PTA の役割、担うべきものがコロナ禍で急激に変化しており、行政を含めてアドバイスをいただきながら進めていかなければならないと感じている。

M 委員：

市民としては防災の部分が気になる所ではあるが、環境問題についてお話ししたい。

マイバッグの持参率 80%の目標が達成され、指標から取り下げられているが、くどいようだがこの点について意見させていただきたい。マイバッグの運動は北摂地区から盛り上がったため、この運動をなくしてしまうのは寂しい。また全国的に推進されており、継続していかなくてはいけないと思っている。環境部の実行計画としては 87%の目標とのことだったが、90%の目標を達成できるよう推進していただきたい。大きな問題となっているプラスチックごみ排出量は 353,000,000t と非常に大きな量となっている。2050 年には海中のプラスチックごみが魚の量を凌駕すると言われている。この問題について、吹田市には海がないが、原因となるごみの排出をストップすることを考えることも 1 つの方法だと考える。企業だけにプラスチックごみの削減を頼るのではなく、市民の一人一人が削減目標を持ち行動を進めていきたいため、具体的な新たな指標設定は難しいかもしれないが、マイバッグ持参率の指標を取り下げるのであれば、プラスチックごみの問題についても議論を進めていただきたい。

N 委員：

社会体育リーダーは、市民に資格を取っていただき、地域でスポーツイベントを実施していただいている。いろいろと実施はしているが、ここ最近は参加人数が減ってきている。なぜかという、高齢化が進んでいるからであるが、声掛けはどうすればよいのか、非常に悩んでいる。自治会、連合自治会、民生委員等にいろいろとお願いしているが、横のつながりがあって初めて情報交換でき、声掛けができて、人を集められる。それが難しくなっている。体育指導として子供から大人までを対象に実施しており、特に、認知症予防ということで、ノルディックウォークを吹田市で進めようとしているが、なかなか参加者が増えてこない。いくら指導者を増やしても、人が集まらない。各団体において、口コミで人を集めてもらうのが最も効果的である。全員に声掛けができればよいが、自治会は登録している人が対象で、民生委員は対象地域の全戸数が対象であり、どうしても漏れが生じる。そのギャップをいかに解消できるか。御意見があれば聞かせていただきたい。

副会長：

教育の出身者として教育の話をまずしたい。2013 年、大阪教育大学に在籍し、使節団を作り OECD

に訪問し、話を聞き意見交換する場を持った。行ってみて大変よかったが、その際に驚いたことが2つあった。1つは、教員を対象とする TALIS という国際調査があり、10年後の今の教員の働き方改革にもつながっているが、日本の教師がいかに働き過ぎているかが明らかになった。調査があること自体知らず、ちょうど調査の直後で結果は世界的に公開される前だったが、日本の教師の働き過ぎの現状と日本の教育の特性について聞いて驚いた。もう1つは、エデュケーション 30 という言葉を聞いたが、30とは2030年がターゲットということで、OECD、特にヨーロッパではSDGsと強かにリンクしてプロジェクトを推進している状況だった。全世界でSDGsゴールに掲げるような教育を全ての学校で実現するターゲットイヤーを2030年に、というプロジェクトであり、非常に驚いた。日本はその流れに決定的に立ち遅れていたため、無理をして追いつこうとしてきたのがこの10年であった。学校現場からすれば、乱暴すぎるほど改革が押し寄せてきて、ICTや事業の方法、能力観も全てが変わり、激変が続いている。学校教員も悲鳴を上げている状況である。それと同時に、SDGsの地球規模での改造計画とリンクしているという状況で、吹田市の総合計画は中間見直しの地点ということで、新たな吹田市像をどうするのか、自分自身が関わらせていただくのはありがたい機会と感じている。

中間見直しについて、基本的枠組み、組立てについては押さえた上で、新たな状況に照らし合わせたものを盛り込み、必要なものは入れていかなくは時代遅れとなる。総論としては理解できるが、実際はその塩梅が難しい。自分の意見はどちらに当たるのか、戸惑いながら意見をしていた。皆さんもそうだったのではないかと。1回目は分からずにいたが2回目は特にその辺りを意識しながら考えた。これまでの2回の部会では個別に掘り下げて考えようということで、大綱ごとに指標と現状と課題について考えた。要は因数分解であり、これからはステージが変わり、委員からの意見を咀嚼して、計画に盛り込んでいただく。またそれを見せていただき意見をさせていただく。因数分解が終わり、総合化を図っていく段階となっていくという理解をしている。その中で、細分化し個別で見えてきたが、吹田市が端的にこの急激な変化の中でどのような都市をめざしていくのか、共通のメッセージに昇華できるような議論となったらよいと考えている。引き続き自分の役割を果たしていきたい。

会長：

私はひょっとすると皆さんの議論を封じる立場となっていたかもしれない。皆さんは委員となられ、少しでもよい吹田にしよう、そのための少しでもよい総合計画にしようという思いで参加いただいていたかと思う。私ももちろん同じ思いであるが、元々、第4次総合計画の策定に携わっていたオリジナルメンバーとしては、市長からの方向性も受けて考えてきた計画をどこまで変えてよいのか。骨格は変えられないということで、中核市移行やコロナ禍を経て見直すべきところをチェックしていただきたいと申し上げた。不満も多々あったかもしれない。爆発した思いは、第5次総合計画の際にぜひ皆さんで盛り込んでいただきたい。一方で、中途半端な見直しだったかというところではない。吹田市が直面する社会的な要因、経済的要因、経済状況、人口、教育、福祉等、さまざまな要因から想定される進路予想図を書くのが総合計画である。一つ一つの施策については個別の計画で書いていただければよい。総合的に見て、バランスの中で各施策の目標を考えるのが総合計画の特徴である。基本的了解はできたと認識している。新年度からは具体的に庁内で落とし込んでいただく。またそれを基に議論を重ねて中間見直しの最終完成形に到達していく。新年度も引き続きお力添えをお願いしたい。

事務局：

部会を含めて熱心な議論を多数いただき感謝申し上げます。部会を通じて指標に対して、特に御意見を

多数いただいた。資料7、8で本日お示ししたものは、皆様からの意見を反映する前の情報で整理したものであり、改めて現時点で事務局としての整理が必要だと考えている。塩梅という言葉があったが、今回の中間見直しの基本ベースは「追補・増補」である。中核市移行、コロナなどを受けた経済や社会情勢の変化を踏まえて必要なところ、足りない部分を追補・増補しようというのが見直しの基本である。施策指標として現行計画で設定した82個の指標について、目標値を修正したり、置き換えたり、かなりの変更をしようとしたが、現行計画で設定していた指標がなぜ削除されたのか、また目標値の修正についても多数の御意見をいただいた。10年間追っていくべきものであるゴールポスト、指標そのものを変えてしまうのかという御指摘については重く受け止めている。立ち戻るべきだと考えるのは、82個の元々設定していた指標は、目標値も含め引き続き追いかけていくべきであり、実績が下がったものは下がった理由を示し、実績が上がったものは頑張ったということを見せて説明していくべきであるという御指摘もあり、原則的にはそれを実行していきたい。ただ、毎年把握ができない、個別の実行計画との乖離が生じている、整合性が取れていない、表現として分かりにくいなど、課題のあるものについては補足の指標を設定するなど整理したい。追補・増補の塩梅が難しく悩ましい部分ではあるが、来年度、そのスタンスがぶれないよう再度お示しができればと考えている。

会長：

そのような方向性で問題はないため、庁内で議論を進めていただきたい。

最後に、副市長からも一言お願いしたい。

春藤副市長：

皆様からの貴重な御意見と活発な御議論に感謝している。誤解を与えてしまうといけませんが、私は実行を非常に重視している。立派な計画より一つの実行ということを常々職員に言っている。スケジュール、期限、結果、レベルにこだわりなさい、民間であれば期限を守らなければ仕事は来ない、それにこだわるようにと言っている。指標については、一つの指標がその施策全てを表すことがほとんどなく、達成できなければ次の目標をもって取り組むように言っており、それが今回混乱を招いたかもしれない。変えるということではなく別の指標を立てることも重要なのではないか。総合計画に対する認識として、10年をかけてでも計画を実行していかなければならないものと、新たに出てきた行政課題に対して柔軟に対応していかなければならない、この2つを切り分けながら取り組んでいく大切さは十分に認識している。最初にあったように、総合計画に盛り込むかどうかよりも、意見をいただいたことは記録として残すべきである。

SDGsに関しては、あまりにも職員が意識していないため、SDGsを意識して計画を作っていくというのが事の始まりである。今後はSDGsを真に理解した上で、計画を立てていかななくてはいけない。

また、残り5年で総合計画の目標に近付けるかが重要だと考える。次の総合計画に入れるものであっても、次に見えているということ意識して取り組むという中で、職員もいろいろと考えて目標値を設定してきたということは御理解いただきたい。

少子化対策について、吹田市でも取り組んでいるが、基本的には国が積極的に取り組んでももらわないといけない。限られた予算をどこに振り分けるかということで、市民の理解が得られるかどうかということになる。よくテレビで報道される明石市は、中核市で積極的に取り組まれているが、人口としては毎年500人程度の増加で、吹田市では毎年2,500人程度増加している。さらに、生産年齢人口もありがたいことに増えているという状況の中、どこまで子育て施策に予算を回していくのか。じっくり検討

をしなくては、何かを諦めるということも現実的には必要になってくる。吹田市の現状や市民ニーズを把握しながら慎重に進める必要がある。例えば、出産後の家事支援でヘルパーを派遣するような独自のサービスをスタートさせているため、注力していることは間違いなくある。ただ、アナウンス力が足りないため、共通の認識、ゴールについて総合計画策定時には作っていかなくてはいけないということを、皆様からの御意見をいただき改めて感じた。

辰谷副市長：

マイバッグの取組は北摂を中心に頑張った取組であり、総合計画の施策指標から消えてしまうことへの指摘については非常に心に響いた。まだまだ伸ばす必要もあり、指標の数を減らす必要もないため、再度見直していきたい。また、資料2に関して、今回の見直しに際して市民参画ということでアンケートを実施したり、ワークショップをしたりし、細部にわたり御意見をいただいている。市民自治、協働という意味で自治会、NPOという具体的な例も出ているが、市民自治に関してどう取り組むかは大きな課題である。総合計画にどこまで組み込むかは別として、見直しに際して市民参画に取り組んでいることは何らかの形で残し、反映できるものは反映していきたい。

### 3. その他

次回の全体会の開催予定他について事務連絡を行った。

以上

## 出席状況一覧

第2回吹田市総合計画審議会 令和5年(2023年)2月21日(火)午後6時30分 開催

(選出区分毎の五十音順・敬称略)

	号	区分	分野	所属・役職	氏名	出欠
1	1号	学識経験者	行財政 社会保障財政	甲南大学経済学部 教授	足立 泰美	欠席
2	1号	学識経験者	福祉	梅花女子大学心理こども学部 教授	井元 真澄	出席
3	1号	学識経験者	行政経営	大阪大学大学院法学研究科 教授	北村 亘	出席
4	1号	学識経験者	市民自治	関西大学社会学部 教授	草郷 孝好	出席
5	1号	学識経験者	安心安全	関西大学社会安全学部 教授	越山 健治	出席
6	1号	学識経験者	教育	千里金蘭大学生生活科学部 教授	島 善信	出席
7	1号	学識経験者	保健医療	大阪大学大学院医学系研究科 特任准教授	野口 緑	出席
8	1号	学識経験者	環境	大阪大学大学院工学研究科 助教	松井 孝典	出席
9	1号	学識経験者	DX	大和大学理工学部 教授	松浦 敏雄	出席
10	2号	公募市民	/	—	安藤 義貴	出席
11	2号	公募市民		—	周 月茹	出席
12	2号	公募市民		—	藤村 隆太郎	出席
13	2号	公募市民		—	山中 拓也	欠席
14	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市社会福祉協議会 会長	櫻井 和子	出席
15	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田商工会議所 会頭	柴田 仁	出席
16	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市医師会 副会長	相馬 孝	欠席
17	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市PTA協議会 副会長	高田 耕平	出席
18	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	アジェンダ21すいた 副会長	福井 一彦	出席
19	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市社会体育団体連絡会 幹事	矢野 哲也	出席
20	4号	関係行政機関	/	西宮市 政策局 政策総括室 政策推進課 課長	堀越 陽子	欠席

選出区分の号は、吹田市総合計画審議会規則第3条第2項の各号による。

## 吹田市 出席者

事務局	春藤副市長、辰谷副市長
	今峰行政経営部長、企画財政室：伊藤室長、吉村参事、森岡主幹、清家主査、山本主任
	委託事業者